

髪で人を笑顔にする

南アルプス市立甲西中学校三年 福島 日葵

みなさんは、「ヘアドネーション」という言葉を知っていますか。知らない人は、今回私の作文を見て少しでも多くの人に知ってもらえたら嬉しいです。ではお話しますね。

私がヘアドネーションという活動を知ったのは、今から七年前、母に教えてもらいヘアドネーションと出会いました。ヘアドネーションとは、寄付された髪の毛を使って小児がんや先天性の脱毛症、不慮の事故により髪の毛を失った子供から大人の方々に医療用ウィッグを提供するボランティア活動のことです。特に、子ども用医療かつらは値段が高く買うことができない人も多いので、普通は帽子をかぶって過ごしている子供たちが多く。また、ヘアドネーションでつくるかつらはすべて人毛を使うため、現在二百人待ちだそうです。そして、その髪の毛は長さ三十センチメートル以上で、約二十人分の毛が必要なのです。

私は三歳の頃肺炎にかかり一ヶ月ほど入院しました。同じ病棟には病室の外にも出られない重い病気の子や、車椅子で生活している子などさまざまな理由で入院している子がたくさんいました。私はその時小児がんと戦っている子供たちがいることは知りませんでした。ただ、あの時病棟の本やおもちゃが沢山置いてある自由なスペースで遊んでいた時、看護婦さんといった、子供が忘れられませんでした。その子は、とても元気で明るく病気とは全く見えませんでした。9月なのに帽子をかぶっていました。

私はその話を母から聞いたとき、初めて小児がんで髪を失い帽子をかぶって過ごしている子供たちがいることも知りました。その時はまだ髪の毛を寄付する長さが足りなかったのですが、髪を伸ばして絶対に寄付したいと強く思いました。私は小さい頃から髪を何も考えることなく伸ばしては、ある程度伸びたら、普通に美容院に行きヘアカットしたのです。今考えると、必要とされている髪を捨ててしまっていたようなものでした。それから約一年半の間何度も自分の気持ちと戦いました。髪を伸ばすと、毎日長い髪を洗ったり乾かししたりするのが大変で、髪をポニーテールに結ぶのも苦労しました。二〇一八年の冬。ついに私の髪の毛の長さは目標だった三十二センチメートルになりました。母が、

「伸びたね。そろそろいいんじゃない。」

と言ったので、ものさしで髪の毛の長さを測ってもらいました。長さは充分でした。次は美容院探しです。母と一緒にインターネットでヘアドネーションの協力店を探しましたが、残念ながら山梨には数多くはありませんでした。自分の中で納得ができず再度調べてみると、自分で切ってヘアドネーションの団体に贈ることも可能であると知りました。そして、私はついに決意しました。いつも通っている美容院のお姉さんに連絡しました。

「ヘアドネーションの団体に自分の髪を送り、小児がんの子どもたちや病気で困っている方に使ってもらいたい。」

と自分の気持ちを伝えました。するとお姉さんが

「私たちも出来る限り協力させて下さい。」

と優しく応えてくれました。まず、髪を丁寧に乾かしてから一・五センチメートル位の太さに束ね、輪ゴムでとめました。私の髪は量が多いので輪ゴムの束が二十本程できました。なぜ乾かすのかというと、湿っていると製作中にカビが生えることがあるからだそうです。次に、輪ゴムの一センチメートル位上の所にはさみを入れ、ジョキジョキと切り落としてもらいました。私はいつも髪を切る時とは違う、なんとも言い表せられないドキドキがありましたが、切り始めるとあっという間でした。そして、切った毛束はサランラップに包んでレターパックで団体へ郵送しました。送ってから数週間後、団体からお礼のお手紙と「協力ありがとうございます。」とカードが送られてきました。それを見た時、私は特別な事をしたわけではないけれど、嬉しくなり気持ちが温くなりました。

このヘアドネーションはとても地味なことかもしれませんが、でも、がんの子ども達や病気で髪を失った人達の役に立てるのだから素晴らしいことだと思いました。この活動を始めた人たちをとても尊敬しています。まだ、「ヘアドネーション」という言葉を聞いたことがない人に、この活動をもっと知ってもらい、どこの美容院に行ってもヘアドネーションができるようになって、髪を寄付することがあたりまえのことに繋がってくれることを願っています。そして、あの時病棟であったあの子が、今でも元気で明るく過ごしていることを願っています。